

KINGCA WEEK 2025 に参加して

聖マリア病院 外科 倉田加奈子

今回「日常と違う世界から刺激を受けたい」という思いで KINGCA WEEK 2025 に参加しました。

私は『Report of advanced gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation』という演題で発表しました。日常診療で経験した症例について国際学会で発表できることは大変有意義でした。しかし、今回は E-Poster であり参加者と英語で discussion をする機会がありませんでした。次回は、自分の手術手技を批評していただき、英語で discussion できるよう、手術手技と英語力を磨きたいと思います。

学会では、食道胃接合部癌に対する噴門側胃切除術の発表が多くありました。日本と同様、韓国でもホットな話題であるようです。特に再建方法について、逆流防止など術後 QOL 維持の工夫について議論されていました。他国では日本の先生方が考案した再建方法を施行していました。また、日本の先生方の発表に対してフロアから多数の質問があり、日本の手術が先進を行っていることを感じました。現在、私が噴門側胃切除術の再建について課題の 1 つとしているため、他国、日本ともに偉大な先生方の発表を聞くことができ大変勉強になりました。その他、臨床試験など大規模なデータの発表もあり、韓国の外科医の勢いを感じました。

今回、1 人で学会に参加しましたが、大阪赤十字病院の細木久裕先生にお会いし、ご厚意により The Catholic University of Korea, St. Mary's Hospital の食事会に参加させていただきました。現在私が勤務している病院も“St. Mary's Hospital”であり、急遽参加させていただいだにも関わらず『仲間』として歓迎してくださりました。若いレジデントから著名な教授まで、多くの世代の先生方と話すことができ、貴重な機会となりました。レジデントの先生は大変勤勉で、毎日 6 時台から仕事をしているようでした。緊急手術や腹腔鏡下胆囊摘出術などから執刀することを始め、日々修練をしているようで、日本と同様であることが興味深く感じました。また、同世代の中堅の先生方は英語力が優れており、自分の考えがしっかりとあり、広い視野を持っていました。とても刺激的で、国を超えて切磋琢磨し合える素晴らしい感覚を感じました。今後も他国の同年代の医師と交流する機会があれば、積極的に参加したいと思います。韓国の先生方は圧倒されるほどのパワーがあり、団結力もあります。とても楽しく、良い思い出になりました。

今回、KINGCA WEEK 2025 で得るものが多く、参加してよかったですと心から思っています。日常診療では、進行癌、超高齢者、多数の併存症など、難易度の高い症例の手術に悩むことが多いですが、これからも向上心を持って頑張っていこうと勇気をもらいました。改めて、今後も胃癌診療に関して常に UP Date し、手術手技を磨き、腫瘍学的に適切で、患者さんの生活の質を損なわない手術ができるようになりたいと思いました。また、国際学会だからこそ出会える



先生方とお話しできましたこと、国際学会独特の雰囲気を体感できることは、良い経験となりました。国際感覚を磨くということは大切であり、今後も躊躇なく様々な経験ができるよう、細々と取り組んでいる『英会話』を継続しようと思っています。次回は Master Class にも応募し、広く、深く胃癌診療を学びたいと思います。

最後になりましたが、学会参加を支援してくださった日本胃癌学会に深く感謝申し上げます。



大阪赤十字病院 細木久裕先生と



Prof. Song, Kyo Young、Prof. Kim Dong-Jin らとの食事会



Gala Dinner にて